

一日向の子供たちの未来づくりー

「よのなか先生」300人構想計画について (案)

2015年7月14日
日向市キャリア教育支援センター

I. 「よのなか教室」の趣旨とねらい

1. 真の「地方創生」を今こそ！

- ・これまで、日向市キャリア教育推進懇話会において、産業界、行政、学校の代表が集い産官学を挙げて、問題や課題の研究・協議を重ねてきた。
これらの検討の結果、「日向の子供たちの未来づくりプロジェクト」として、次の二つの点で取り組むことになった。
 - (1) 学校においては子供たちの学ぶ意欲を高め、将来を考えさせ「学力」と「生きる力」を向上させる。学校（先生方）がその主役であり企業（産業人）はその強力な支え役である。
 - (2) 働く大人たちが、子供たちに語る「日向の大人はみな子供たちの先生」運動を起こす。
子供たちに「社会」を考えさせ、故郷日向への自信と誇りと魅力を感じさせるには、産業界の力が不可欠であり不可避である。
- ・生産年令人口の減少は既に20年前からはじまっており、今後さらに加速度的に減少する。
既に多くの業種で人手不足が顕在化しており、早晚すべての職種において大きな経営上の課題になることが指摘されている。
日向市の地域企業・商店・産業にとっても、人材確保は極めて重要な経営課題となる。
日向の将来を担う子供たちは、日向の大人たちすべての力で育てていくしかなく、それこそが真の地方創生につながる重要な施策である。

2. 産業界に求められる「役割と責任」

- ・家庭と地域の教育力が低下してきていることが指摘されている。
家庭では、教えない、伝えない、叱らない、強制しない親が多い。
地域では、関わらない、見知らぬ他人への警戒を懸念して子供たちに近づかない傾向がある。
- ・これを学校（先生）だけで埋め合わせることは不可能である。ここにこそ、企業の力が求められている。それは、産業界が果たすべき重要な「役割」と「責任」である。
- ・企業経営者と、そこに働く従業員（若手、中堅、管理職、OB）が、学校に出向いて、働く喜びと苦勞を語る。そのことで、子供たちが社会の厳しさを知り、生きる楽しさや喜びを感じるができるようになると期待できる。

3. この活動の、ねらいは次の通りである。

- (1) 子供たちに、「将来どう生きるか」を考えさせる機会を増やしたい
- (2) 子供たちの、学ぶ意欲を高め、「学力を向上」させたい
- (3) 日向を子供たちが「喜んで住みつづけたい」と思う街にしたい



「日向商工会議所会館に掲示されているスローガンの看板。
JRの車窓から一際目を引く。

II. 「よのなか教室」のこれまでの経緯と、見えてきた課題

1. 大人が本気で語る「よのなか教室」

新人も、中堅の人も、管理職の方も、社長さんも、お店を経営されている方も、農林産業の方も、仕事をリタイアした高齢者の方も、・・・日向で働くすべての大人が子供たちに関わっていただきたいと願っている。

そして、日向市内の小学校、中学校、高等学校に行って、子供たちに「働く喜びと苦勞」を本気で語っていただく。現在、約100名の方々に「よのなか先生」として登録いただいております、平成26年9月から各学校において「よのなか教室」をスタートした。

2. 学校（先生方）に生まれた数々の工夫

- ・学校では、単に社会人講師の話を聞くイベントに終わらせるのではなく、社会や理科道徳さらには総合学習の時間等を多面的に活用して、「学ぶ意味」や「将来の夢」などを考えさせる授業に組み立てていただいている。
- ・「よのなか教室」が行われる前に、先生自身に講師の職場を訪問していただき、事前打合せを行うことで、授業内容の充実が図れ、何より先生方自身が生の社会の事実に関心を持ち、意識が変わる。
- ・「よのなか教室」を活用した授業に、各学校で先生方の様々なアイデアや工夫が生まれはじめている。一度に10名の「よのなか先生」に来ていただき、3回ずつ話をしてもらい、子供たちは関心のある3名の大人から話を聞いたり、職場体験の前の講座として、大人と子供たちによる「働く上で大切なこと」というテーマでのパネルディスカッションを行ったり、中学校に高校生に来てもらい「高校生と語ろう」という企画を実施した学校もある。



「高校生と語ろう」－先輩から学ぶこと
高校生と社会人と中学2年生との対話

3. 社員が成長する場になる

- ・若い社員、中堅社員が子供たちの前で話すことで、普段の仕事を一旦立ち止まって考える機会になり、仕事観を見直す気付きになっている。

「よのなか先生」を経験することによって、社員が成長する場になる。

- ・「よのなか先生」の研修を兼ねて、「モデル授業」や「交流会」を実施しているが、参加者自身も、他の大人の仕事の話を聞くことは普段なく、とても勉強になると評価されている。

4. 子供たちも成長する

子供たちが、普段先生から聞いていた話が、「よのなか先生」の話により、現実の生の社会でも同じであることに気付き、社会への理解が一段と深まり、成長する。

5. 学校と産業界との連携をもっと強く

「よのなか教室」を核として、小中高生の育成を市民運動として周知し徹底していくことがこれ

からの課題である。

そのために、「よのなか先生」の登録者をさらに拡大することと、学校においては年間を通じたストーリーのある活動計画づくりがなされることが課題である。

日向の子供たちの未来づくりのためには、学校（先生方）と産業界とがお互いに、もっともっと歩み寄って協力し合うことが必要である。

Ⅲ. 「よのなか先生」 300人構想計画について

1. 達成目標（2015年度の目標）

小中一貫校（3校）、小学校（11校）、中学校（4校）、高校（4校）合計22校において「よのなか教室」を活用した年間計画（教科、総合等を網羅した）が策定され「よのなか教室」が、**5回以上（／校／年）**実施されること。（既に市教委から各小中学校へ依頼済）

＜小中一貫校＞	＜小学校＞	＜中学校＞	＜高等学校＞
大王谷	富高 財光寺南	富島	日向
東郷	財光寺 幸脇	日向	日向工業
平岩	細島 美々津	財光寺	富島
	寺迫 塩見	美々津	門川
	日知屋 坪谷		
	日知屋東		

2. 「よのなか先生」登録者を今年度末までに300人（現在は100人）に拡大する。

- （1）企業経営者に趣旨説明と登録のお願いを、各種定例会合などを活用して実施する。
- （2）商工会議所、JA、県工業会県北支部、金曜会、日向共栄会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、商店会等において組織的に登録者拡大をすすめる。
- （3）上記により、紹介いただいた候補者（名簿）の方々に、資料（協力依頼と登録用紙をチラシ印刷する）を、ダイレクトメール（返信用封筒を入れて）で郵送する。
- （4）経営幹部の方々の登録を推進するとともに、従業員（企業・商店のトップから推奨していた）の登録も推進する。
若手、中堅の従業員の自己成長が促せ、結果が本人と上司に評価確認できるよう、子供たちの感想文や感謝の手紙等の情報フィードバックを丁寧に行い、社員教育の有効な場として認識を高めていただくよう工夫努力する。

3. その他として、次の施策を実施する。

- （1）「よのなか先生」を対象とした「よのなか教室」（研修会）を定期実施（2ヶ月に1回程度）して研鑽と交流を深める。
 - ・自ら学び高める研修の場に
 - ・地元愛をもった方々とのつながりを生み出すネットワークづくり
（大人の未来づくり、大人同士の学び合い）

(2)「よのなか先生」(個人として参画)ならびに企業(「よのなか先生」派遣、キャリア教育全般に協力)を表彰し、その功に報いるとともに、広く市内外に周知してさらなる展開を図る。

以 上